HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Factors related to furniture anchoring: A method for reducing harm during earthquakes

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原岡, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003418

論文審査の結果の要旨

地震発生時の人的被害を軽減するための重要な防災対策の一つは家具等の固定である。しかし、具体的に、家具等の固定の実施に対してどのような要因が影響を及ぼしているかは明らかにされていない。そこで、申請者は、アンケート調査により、家具等の固定の実施に関連する要因について詳しく検討した。

静岡県内 2 市の住民基本台帳から無作為抽出した 20 歳から 69 歳の男女 3446 人を対象に、2010 年 7 月から 8 月にかけて、自記式郵送調査を行なった。質問紙の内容は、性、年齢、学歴、世帯構成、経済的余裕、住宅の所有状態などの基本項目と行政からの防災対策情報に対する信頼、地震に対するリスクの気付きとリスク認知、地震の知識、防災活動参加状況などの地震に関する項目であった。

その結果、有効回答者は 1729 人であった。そのうち家具等を固定していると回答した者は 625 人であった。オッズ比で 家具等の固定と有意（$p<0.05$）に関連があったのは、基本項目（14 問）については、既婚、非木造住宅の 2 項目であった。一方、地震に対する項目（17 問）については、3 項目を除くすべてについて有意な関連がみられた。

これらの結果から、地震に対する行政からの防災対策情報、リスクの気付き、リスクの認知、地震の知識、地域の自主防災活動への参加、非木造住宅、既婚が家具等の固定に結びついていたことが明らかになった。

審査委員会では、本研究が、重要な地震防災対策の一つである家具等の固定の実施を促す要因についての詳細を初めて明らかにした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　主査　　中原 大一郎
副査　　永田 年　　副査　　吉野 篤人